

市民一人当たりの予算の使い道

2014年度一般会計予算額を、2014年1月1日現在の町田市の人口(426,222人)で割って算出しました。

市民一人当たりの予算額328,363円のうち、市税でどのくらい負担しているのですか？



市民一人当たり
予算額
328,363円
(前年度比+19,154円)

子どもや障がい者、
高齢者などの
医療・生活支援のため

道路や公園、区画
整理などのため
28,203円
(前年度比+2,702円)

小・中学校や
文化、スポーツなど
教育のため
34,324円
(前年度比+2,506円)

市政の
運営のため
38,156円
(前年度比+13,437円)

市民の健康や
よりよい
生活環境のため
30,274円
(前年度比+1,464円)

消防・防災
のため
12,389円

市債の
返済のため
14,397円

その他
5,331円



市民一人当たりの予算額に対する市税負担額は158,604円で、ほぼ半分を占めています。残りの半分は、国・都支出金(国や東京都から交付される補助金など)99,470円や、市債(借金)18,288円、基金(貯金)の取り崩し11,348円などによってまかなわれています。

※円の大きさが市民一人当たりの予算額の大きさを表しています。
※前年度より1,000円以上の増減があったところのみ、前年度比を掲載しています。

医療・生活支援のための予算について



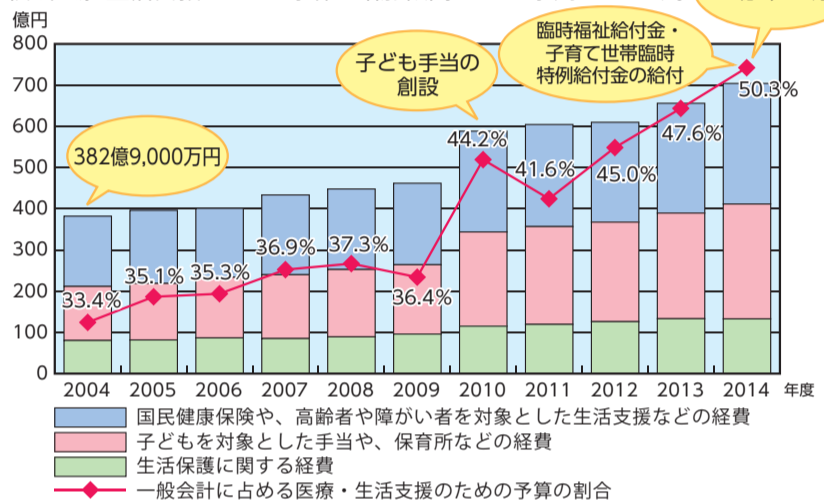
上記「市民一人当たりの予算の使い道」を見ると、子どもや障がい者、高齢者などの医療・生活支援のための予算が市民一人当たりの予算の中で大きな部分を占めていることが分かります。医療・生活支援のための予算の内訳や推移を教えてください。

1面の「一般会計の年間歳入歳出予算」を見ると、2014年度の医療・生活支援のための予算は704億5,000万円で、一般会計予算の50.3%を占めています。そのうち、社会福祉費(国民健康保険や高齢者福祉、障がい者福祉などの経費)が292億5,000万円、児童福祉費(子ども対象の手当や、保育所などの経費)が278億8,000万円、生活保護費が132億8,000万円となっています。

10年前の一般会計に占める医療・生活支援のための決算額の割合は、33.4%でした。2004年度の決算額と2014年度予算額を比較すると、321億6,000万円増加(1.8倍)しています。



医療・生活支援のための経費は、その性質上、国の制度改正(児童手当、障害者自立支援給付費など)や社会経済状況の影響(生活保護費など)を大きく受けるものです。少子高齢化の進展により社会保障関連経費の増加が見込まれるため、今後も医療・生活支援のための予算は増加傾向であると予測しています。



※2004~2012年度は決算額、2013年度及び2014年度は補正後予算額

まちだの台所事情

—貯金(基金積立金)と借金(市債)はどれくらいあるの?—

基金積立金(貯金)の状況

基金積立金は、家計に例えると貯金にあたるものです。「財政調整基金」では、災害復旧など臨時の支出や経済事情の変動などで収入(歳入)が足りない時に取り崩し、逆にお金が余った時には、貯金(積立)して年度間の財源を調整しています。

区分	2013年度末 現在高	2014年度中増減見込額		2014年度末 現在高見込額 (※)
		当該年度中 積立見込額	当該年度中 取崩見込額	
財政調整基金	63億8,815万円	38万円	36億9,136万円	26億9,717万円
その他特定目的基金	58億659万円	3億8,098万円	15億7,509万円	46億1,247万円
合計	121億9,474万円	3億8,135万円	52億6,645万円	73億964万円

「その他特定目的基金」は、あらかじめ使い道を決めて積み立てや取り崩しをする基金で、公共施設整備等基金、福祉基金、緑地保全基金、職員退職手当基金、介護保険給付費準備基金、廃棄物減量再資源化等推進整備基金があります。

(※)今後、2013年度の剰余金などを積み立てていくことで、現在高を確保していきます。

市民一人当たりに換算すると・・・ ※人口:426,222人(2014年1月1日現在)

貯金の残高
(2014年度末見込)

17,150円
(前年度比-2,450円)

ローンの残高
(2014年度末見込)

328,353円
(前年度比+4,787円)



市債の残高が、2014年度末で1,400億円もあるなんて、町田市の借金は多くないですか？

一般会計の市債について、市民一人当たりの残高を多摩26市と比較すると、少ないほうから8番目の金額です(2013年度は6番目)。一般会計の市債は、市税をもとに返済していきます。

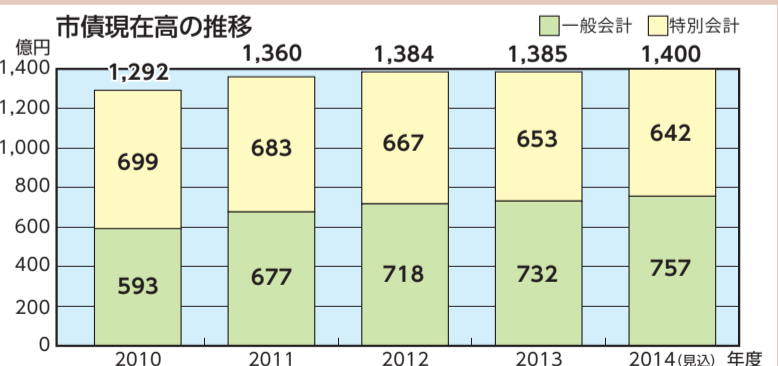


下水道事業と病院事業を合わせた特別会計の642億円については、公立病院や下水道の整備状況が市によって異なるので単純比較は難しいです。特別会計の市債は、医療収益や下水道使用料をもとに返済していきます。

市債(借金)の状況

市債とは、家計に例えるとローンにあたるものです。公共施設などをつくるために必要となる多額の資金を「長期ローン」として借り、将来利用する市民との費用負担を公平にしています。ただし、借金であることには変わりはないので、借り入れには十分気をつけています。

会計区分	2013年度末 現在高	2014年度中増減見込額		2014年度末 現在高見込額
		起債見込額	元金償還見込額	
一般会計	731億5,649万円	77億9,490万円	52億3,848万円	757億1,291万円
下水道事業会計	513億6,039万円	21億5,110万円	25億9,239万円	509億1,909万円
病院事業会計	139億5,410万円	—	6億3,483万円	133億1,927万円
合計	1,384億7,097万円	99億4,600万円	84億6,571万円	1,399億5,127万円



※四捨五入による端数処理を行っているため、合計と合致しない場合があります。